

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）	1
1. 学校教育学部、学校教育研究科	3

注) 現況分析結果の「優れた点」及び「特色ある点」の記載は、必要最小限の書式等の統一を除き、法人から提出された現況調査表の記載を抽出したものです。

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	研究活動の状況		研究成果の状況	
学校教育学部、学校教育研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある

1. 学校教育学部、学校教育研究科

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 …………… 4)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 …………… 4)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 教育委員会等（依頼機関）との共同研究を組織的な協力事業として推進するため、平成 29 年度に「徳島県教育委員会等地域連携協力事業－教育委員会や学校と連携した実践的研究－」（地域連携協力事業研究助成制度）を創設した。
- 競争的資金の獲得のために、平成 28 年度から、科学研究費助成事業（科研費）説明会の開催及び学長戦略経費による「新規申請者等へのインセンティブ配分」を実施している。これにより、本務教員あたりの科研費の申請件数、内定件数及び内定率が上昇している。併せて、競争的資金と外部研究資金の受け入れ金額も平成 28 年度から上昇しており、平成 30 年度には競争的資金は約 2 倍となり、外部研究資金は約 3 倍となっている。
- 平成 28 年度に「鳴門教育大学消費者教育推進プロジェクト」を立ち上げ、消費者庁、徳島県との協力体制のもと消費者教育の先進的拠点として教育・研究を行っている。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、2 件、1 件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。